

首相官邸HP 2021年4月16日 午後

加藤官房長官定例記者会見

ドイツ・ドレスデン民族学博物館の像について

https://www.kantei.go.jp/jp/tyoukanpress/202104/16_p.html

動画の17分20秒～

記者：フリーランスの〇〇です。

ドイツのザクセン州のドレスデン民族博物館で、日本、日本のですね、韓国の「慰安婦」についての展示が行われているんですけども、これについてですね、アルメニアとか旧ユーゴスラビアの大量虐殺エスニッククレンジングと同一視されているような感じで受け取られているということなんですけども、これについて日本政府はかなり現地の博物館に対して抗議はおこなわれているみたいなんですけども、それが返って逆効果になって、反感を買っているというふうな報道がありました。これはむしろですね、被害者感情による日本および日本国民に対するハラスメントというような側面があると思うんですけども、これについて長官どういうふうにお感じになっているのでしょうか？

加藤官房長官：4月15日、ドイツの州立ドレスデン博物館にて「慰安婦」像が公開されたと承知はしております。「慰安婦」像の展示は我が国政府の立場やこれまでの取り組みと相いれない極めて残念なことであり、政府として速やかな撤去に向けて様々な関係者にアプローチをし、政府の説明を行っているところであります。

なお、ご指摘のようにですね、抗議等々について具体的に申し上げることが結果においていい結果につながらなかったということも、これまでもありますので、具体的対応の仕方はコメントを控えさせていただきたいと思っておりますけども、当然現地における受け止め方、そういったことも踏まえて適切な対応をはかっていきたいと考えてます。

記者：関連でお伺いします。産経新聞の〇〇と申します。

展示のタイトルは「言葉も出ない」という展示のタイトルとなっております。碑文には日本帝国軍は無数の少女や女性を拉致し性奴隷を強要したと書かれているとのこと。先ほど長官の説明でも撤去するよう働きかけていくということなんですけども、ドイツの大使館はベルリンのミッテ区の「慰安婦」像の設置に続いてですね、今回のような事態を招いており、まさに失態ではないかと思うんですけども、長官自身どのように受け止めていらっしゃるでしょうか？

加藤官房長官：政府としてはこれまでもいろんな情報収集をおこない、必要な対応を講じてきているところであります。今回のことについて、現時点でこうした「慰安婦」像が公開されたことは重々承知しておりますけれども、そうしたなかで引き続き我が国政府の立場そしてこれまでの取り組みと相いれないものななんと、こういったことをしっかりです

ね、説明していくと、これが大事だというふうに思います。

記者：産経〇〇と申します。関連して伺います。

そもそも、こういった動きについて外務省、ドイツの大使館も含めて把握されていたんでしょうか？

加藤官房長官：基本的にですね、具体的にどう把握していた、あるいは具体的にどう対応しているか、これを申し上げること自体がですね、また反対運動をされている方々への情報ということにも繋がってですね、我々が対応することが十分に、どう言いますかね、対応できないことにも繋がってきた、こういう経験等もありますから、先ほど申し上げたように現地の反応やどう受け止められているのか、しっかり踏まえながらですね、我が国の立場、あるいはこれまでの我が国が行ってきたことをしっかり説明していくこと、これが大事だというふうに思います。